

令和5年度 「学校関係者評価」

	項目 (重点としたものに○)	自己評価 (学校の目標達成状況及び学校の取組の適切さ、改善方策について等)	外部評価者からの意見・指摘
教育環境の充実	① 学校安全の推進	安心・安全な学校を目指し、目的を明確にして避難訓練を行った。	①引き渡し訓練の際に保護者と児童が通学路を一緒に歩き、危険な場所や渡ってはいけない横断歩道を確認するよう学校からの詳細な指示があるとよい。 ③地域を知ることは、歴史や防災を含め防犯にも役立つ。積極的に取り組んでいることを評価する。 ④学校評価アンケートでは、各項目での評価は80%を越えている状況に学校の積極的な取り組みを感じる。今後は20%を少なくしていく取り組みに期待する。
	② 教育情報化の推進	全ての学年でタブレットを活用し、ロイロノート等、発達段階に応じて、工夫して使用している。	
	③ 地域との協働推進	地域の歴史を調べたり、防災について調べる際、協力を仰いだりして、地域との協働に取り組んでいる。	
	④ 学校評価を生かした学校づくり	学校関係者評価や、保護者によるアンケートを真摯に受け止め、学校づくりに生かしていく。	
Ⅰ 学習指導の充実	① 授業改善の推進	指導案作成から学年間で協力をし、互いの授業を見合うことを通して、授業改善を図っている。	①児童一人ひとりが授業内容をすべて理解するという事は難しいかもしれない。でも「わからない」を少しずつでも「わかる」ようになるよう授業改善していくことは大切だと思う。 ①学年経営を中心に子ども体の学習を計画している取組に評価する。参観をするなかで子ども達の学習意欲を感じた。 ③いろいろな体験学習は、教科書と違った知識習得につながると思う。地域や専門職との交流を積極的に推進していただきたい。
	② 健康体力づくりの推進	日々の給食指導を大切にし、保護者とも連携して食教育を進めている。	
	③ 体験活動の充実	地域の方と連携してお米づくりをしたり、昔の遊びを体験したり、各学年で工夫して行っている。	
	④ 今日的課題への取り組み	児童が自ら課題を発見し、解決していこうとする学習ができるよう、授業改善を進めている。	
Ⅱ 支援の充実	① 支援環境の充実	教育相談コーディネーターを中心に、SCやSSWとも連携しながら、チームとして対応している。	③校長より提案のあった「あいうえお」の心を中心に据えて、子どもの心の豊かさを道徳教育や全体の目標としてほしい。いじめだけでなく 学校への安心と居場所、活躍できる場所として取り組んでいくことを期待する ③学年の先生で担任ではないクラスもカバーできていて充実していた、とても良い。 ③言葉の暴力が気になっている。学校の中でも、相手が不快に思ったり、聞いた人が不快だと思う言葉を使用したりすることも心へのいじめだということを指導していただく機会があるとよい。
	② 安心できる居場所づくりと絆づくりの推進	校内支援室「りびんぐ」を立ち上げ、学校や教室に行きにくい児童の居場所づくりに取り組んでいる。	
	③ いじめ対策の推進	学校教育目標の「思いやり」を常に全体で意識し、教員間の連携を密に図り、未然防止・早期発見・早期解決に努めている。	
	④ 不登校対策・問題行動対策の推進	児童指導の情報は教員間で共有し、専門機関とも協力しながら対策を進めている。	
	⑤ 幼・保・小、小・中の連携推進	幼・保とは入学前、中学とは卒業する児童の情報をしっかり共有し、順調な学校生活を送れるように努めている。	

目 学校組織の充実	①学校・学年・学級経営の充実	学校の現状を踏まえ、学校経営方針を見直し、来年度の方向性を話し合っていく。	①教員同士の関係づくりが良好である印象を受けた。風通しの良い職場環境で組織が充実しているように感じた。
	② 研究・研修の充実	今年度は、「子どもの「伝えたい」を引き出す授業づくり～国語科における協働的な学びを通して」をテーマに研究を行い、全学年で取り組んだ。	②たんぼぼ級の研究授業を参観し、先生方の研究の取り組みに感動した。今後もより充実した研究に取り組まれることを期待する
	③信頼に基づいた指導の推進	児童・保護者に対しては、寄り添うことを大切にし、丁寧なコミュニケーションに努めている。	③一人ひとりに寄り添うことは、一番の信頼関係の「礎」と思う。
	④ 働き方改革の推進	会議の効率化や、行事の精選を行うことによって、結果的に働き方改革につながられるよう、努めている。	④打ち合わせや会議の方法を変えるなど、沼小がモデルとなるような働き方改革を前進させてください。